

令和2年度重要生態系等自然環境調査

調査受託者：特定非営利活動法人 西条自然学校

目的

多様な生物が生息する自然公園のうち、気候変動の影響が生じやすい地域や、津波想定範囲における動植物の生息状況を調査することで、気候変動影響評価の基礎資料とする。

調査内容

・ **調査地域** 篠山県立自然公園および宇和海沿岸

・ **調査項目と調査方法**

哺乳類：無人カメラ調査（大中型哺乳類）、トラップ調査（小型哺乳類）
ハープトラップ調査（コウモリ類）

鳥類：ルートセンサス・スポットセンサス（繁殖期、越冬期）

昆虫類：目視調査および捕獲調査（海浜性昆虫類）
目視および鳴き声、捕獲調査（直翅類・セミ類）

爬虫両棲類：目視調査

高等植物：フロラ（植物相）調査（必要に応じて標本作成）、群落調査

調査実施期間 令和2年5月29日-令和3年3月19日

調査地点及び調査範囲



調査地景観



ツクシアケボノツツジ群落
篠山県立自然公園



ハリモミ群落
篠山県立自然公園



宇和海沿岸
愛南町



防鹿ネット設置状況
篠山県立自然公園

調査結果概要

哺乳類：無人カメラ設置（7月16日）宇和海沿岸・篠山県立自然公園
シャーントラップ設置（9月30日）篠山県立自然公園
ハープトラップ設置（9月30日）篠山県立自然公園

鳥類：繁殖期調査終了。越冬期調査実施中
特記種：アカショウビン、ヤマドリ

昆虫類：7月9-10日 1回目調査 8月3-4日 2回目調査

爬虫両棲類：確認種：タゴガエル、ヤマカガシ、マムシ、カナヘビ、ニホントカゲ

高等植物：フロラ調査・群落調査

8月11日：脇本海岸、中玉海岸、大浜海岸

9月14日、10月14日：篠山県立自然公園

脇本海岸⇒ゲンバイヒルガオ（EN）

篠山県立自然公園⇒ツチトリモチ（EN），
ツクシアケボノツツジ（VU），
ハリモミ（VU）、キガンピ（VU），
セッコク（VU）を確認。



ゲンバイヒルガオ(絶滅危惧IB類)

高等植物調査

篠山県立自然公園における
1978, 1986, 1998, 2019, 2020年の群落調査の比較

1986年～1998年の間に

ミヤコザサがシカ食害によってほぼ全滅

今回の調査で

➡ **草丈は低い**が**広い面積で生育を確認**

ツクシアケボノツツジ(VU)群落の林床

➡ **ミヤコザサ**が**優占種**。実生は**確認されない**

ハリモミ(VU)群落の林床 ➡ **イネ科やスゲ属が優占種**

土壌が流出し、岩礫が露出するなど斜面浸食があった場所でハリモミの実生を確認

哺乳類調査

センサーカメラ（2019Browing ストライクプロX自動撮影カメラを3台設置し、中大型哺乳類の調査を実施
ハートトラップを用いて、コウモリ類の捕獲調査を実施
ピットホール、シャーマントラップを用い、小型哺乳類の捕獲調査を実施

➡ **キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、スミスネズミ、アカギツネを初確認**
1960年代と比較してニホンジカ分布域拡大傾向

鳥類調査

1km以上の調査ライン2本と、ポイントセンサスを併用して調査を実施

➡ **繁殖期と越冬期の鳥類を把握**

爬虫両棲類調査

主に第一駐車場から篠山山頂までの登山道で目視により生息種の調査を実施

➡ **篠山でニホントカゲ、ニホンカナヘビを初確認**



シャーマントラップ設置状況



無人カメラ設置状況



コウモリ類計測状況



ハーブトラップ設置状況

哺乳類調査で確認された 主な種



スミスネズミ

Eothenomys smithii (Thomas, 1905)

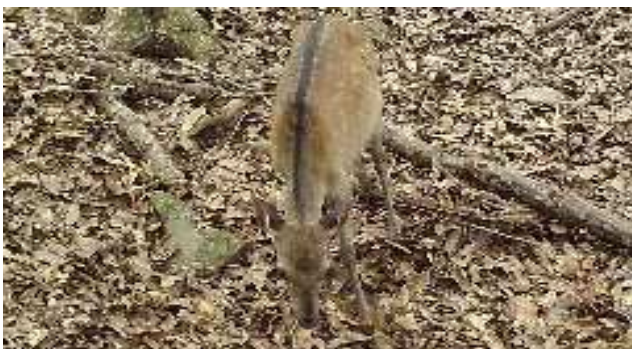
雌1個体, 2020.9.30, 第一駐車場付近, 標高780m, 捕獲調査.



ホンドテン

Martes melampus (Wagner, 1840)

1個体, 2020.8.17, 自動カメラ2による確認. 自動カメラ2では8月, 9月10月に撮影され, 自動カメラ3では7月に撮影



ニホンジカ

Cervus nippon Temminck, 1838

自動カメラ1, 2, 3ともに7月から11月の全ての月で撮影.



キクガシラコウモリ

Rhinolophus ferrumequinum (Schreber, 1774)

雌1個体, 2020.9.30, 第一駐車場付近, 標高780m, 捕獲調査, 5個体, 2020.11.5-6, 第一駐車場付近, 標高780m, 捕獲調査.

昆虫類調査

今回の調査で、
県内絶滅とされていた種を新たに確認

ハマスズ *Dianemobius csikii* (Bolívar)

体長♂6.7mm、♀7.4mmの小形のコオロギ類。体色は淡褐色で、脚に黒褐色の斑がある。生息する砂浜の砂の色に似る。植生のある海岸の砂浜に生息し、まれに河川の砂地でも見つかる。海岸線の開発により、海浜植物の生えた広大な砂浜が消失し、生息する環境が激減した。さらに砂浜の背後の堤防が荒天時の後背地への退避を遮るため、飛翔能力の乏しい本種が波にさらわれてしまうことが減少の要因として大きいと考えられる。香川県、高知県で生息が確認されているものの、県内では1950年代に採集された記録以降、まったく確認されておらず、すでに絶滅したものと考えられていたが、2020年7月に愛南町の海岸域で生息が確認された。



愛媛県レッドリスト
絶滅種から、絶滅危惧 I A
類に変更予定

今後の調査計画

県立自然公園自然環境調査

気候変動によりシカの密度が高まり、植生等への影響が懸念される金砂湖県立自然公園(四国中央市)における動物相および植物相の実態調査

重要生態系自然環境基礎調査

低湿地や海岸域等、気候変動の影響を受けやすい宇和海沿岸地域における動物相および植物相の実態調査

気候変動の影響を受けやすい
海岸域等の動物相、植物相のリスト化と、
当該地域における現状の群落組成の解明